児山城趾

⑥児山城趾
日光道中略記に「城主の名を伝へず」とあるが、宇都宮頼綱の4男で多功氏の祖である多功宗朝の三男が小山郷を領して、児山氏の祖となった児山朝定が建武年間（1334～38）に築城したと伝えられる。元禄元年（1558）上杉謙信が多功城を攻めた際、児山兼朝が上杉方の佐野豊綱と戦って討死し、廃城となった。本丸の土塁と堀がほぼ完全な形で残っている。土豪の城跡の典型。4号線から1215m 15分。

華蔵寺

⑤華蔵寺
児山城初代城主児山朝定の創建と伝えられる。児山氏の菩提寺。

51 石橋宿～雀宮宿

栃木県下野市　栃木県上三川
石橋宿 ～ 鞘堂
（歩行距離 1790m 25分）

歩く地図でたどる日光街道
http://nikko-kaido.jp/
JZE00512@nifty.ne.jp

⑦鞘堂新田　日光道中略記に「元和年中（1615～1624）此地日光街道となりし頃、多巧村の民往還の左右に移り住て、おのづから一村となり、鞘堂地蔵あるをもて鞘堂新田と唱へ来たれり。又下古山村の枝郷なりともいふ」

24 下古山一里塚

所在未確認。日本橋から24里の一里塚。　日光・奥州・甲州道中宿村大概帳に「木立、松、檜、榎、但し、左右塚共に下古山村内」とある。下古山交差点の南側。痕跡はない。今井金吾著今昔三道中独案内によると、星宮神社、追分の先、関東自動車道の手前400mの場所が一里塚と記されている。このあたり下古山と鞘堂が複雑に入り組んでいる。

②五社神社
日光道中略記では「五社大神社　大山村の鎮守とす。…高尾明神社・大杉大明神社・金比羅社・智勝大明神社・天王社。已上五社は本社の傍にあり」という。多功城の守り神として5体の御神体を祀ったことから、「五社」の名がついたといわれてる。この神社の周辺には、大山古墳群がある。

④日光道中
通古山を過ぎると国道から西側を通り約900ｍで国道と合流する。合流地点が「鞘堂新田」。しかし道は、工場などが建ち並び消滅してる。

③下古山高札場跡
日光道中略記に「下古山村新町」とし「元和3年（1617）日光御鎮座までは、往還の辺に人家1，2軒のみあり、其後次第に移り住みて遂に村落をなせしと、村の老翁かたりき」日光街道開通後、800m西の下古山から移住した人達が作った集落、「通古山」である。また、日光道中分間延絵図にも「下古山村」と記されている。街道の右側に高札場が設けられた。

15 石橋宿

石橋宿は、江戸から15番目の宿場。幕末期の記録では、町並みの長さが5町28間（約600m）、家が97軒（旅籠30軒、本陣・脇本陣各1軒、問屋場上町と下町に1軒）、宿の人口は414人（男192人、女222人）駄賃・賃銭　荷物一駄・乗掛荷人共75文、軽尻馬1疋49文、人足1人37文でした。
街道沿いには旅籠跡の建物が残っており、2階の連子格子が往事の面影を残している。『日光道中分間延絵図』では本陣は道の左側になっている。

児山城趾入口

児山城へ行くにはくるまやラーメンのある交差点を左に入る。駅東通りの広い道を行く。

①上三川町（かみのかわまち）の歴史
宇都宮城主宇都宮氏の南の砦として、宝治2年（1248）に多功城、建長元年（1249）三川城が建築された。慶長2年（1597）に宇都宮氏内部の争いから、上三川城が真岡城主の芳賀高武によって攻め滅ぼされ、宇都宮氏が改易になった後、江戸時代は町内の大部分が幕府や多くの旗本、宇都宮藩、関宿藩などの所領となり、そのまま明治時代を迎えた。

児山城への案内

五社神社への案内

栃木県 河内郡 上三川町

栃木県 下野市

① 栃木県 河内郡 上三川町